

P-11. 国際海底地形名の最近の登録状況

小原泰彦(技術・国際課 海洋研究室)

海底には、陸上と同様に、山、山脈、盆地、谷などの多種多様な地形が存在している。これらの海底地形の名称は、学術的にも、海洋管理の上でも、議論の基盤となる重要な情報である。海底地形の命名に際しては、ある一つの地形に対して、複数の名前が付されてしまうと、無用の混乱を生じることとなる。そのため、海底地形の命名には、標準化のプロセスが存在しており、日本国内では海上保安庁海洋情報部が事務局となっている「海底地形の名称に関する検討会」において、また、国際的には GEBCO (GEneral Bathymetric Chart of the Oceans) に設けられた「SCUFN (海底地形名小委員会)」において海底地形名の統一化のための作業が実施されており、いずれも筆者が委員の一人を務めている。GEBCO は、IHO (国際水路機関) と IOC (ユネスコ政府間海洋学委員会) のプロジェクトであり、SCUFN で承認・決定された地形名が国際的に公式なものとなり、GEBCO Gazetteer (海底地形名集) に掲載される。

最近の SCUFN では、我が国、ロシア、韓国、中国、ニュージーランド等から積極的な海底地形名の提案が成されており、毎回の会合において、計数十件の海底地形名が採択され、海底地形名集に登録されている。2013 年の SCUFN は、海洋情報部がホストとなり東京で開催され、我が国からの提案地名では、故小林和男東京大学海洋研究所教授にちなんだ「小林海盆・海嶺地形区 (Kobayashi Basin and Ridge Province) (図 1)」を始め、計 20 の提案が採択となった。

本成果発表会では、最近、我が国が提案し採択となった海底地形名や、諸外国の海底地形名のうち、特に興味深いと思われるものをピックアップして紹介することとする。また、GEBCO Gazetteer は、2013 年 9 月にオンライン版が公開となり、非常に使い勝手の良いインターフェースが実装されている。本成果発表会では、Online GEBCO Gazetteer についても紹介することとする。

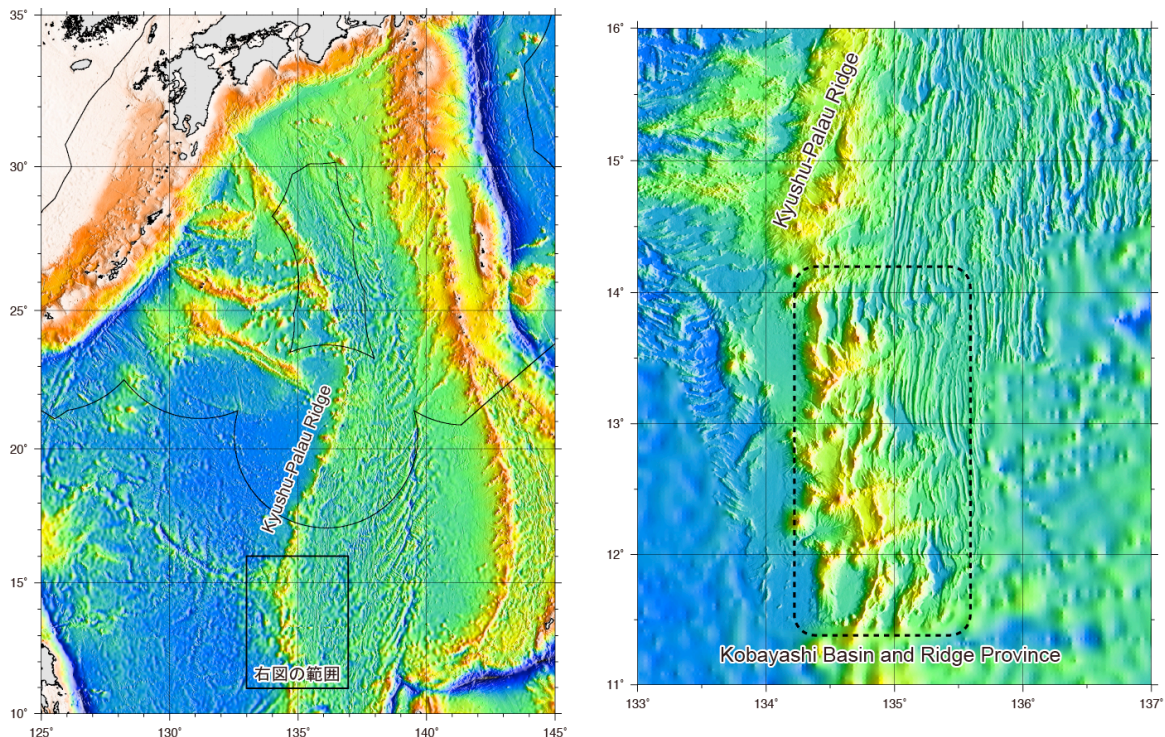


図 1. 小林海盆・海嶺地形区の位置と地形